



野鳥との

ハヤブサ科



●ハヤブサ (漂鳥)
飛翔中の群を乱し1羽を追いかけてつかむ。冬に見られる確率が高い。(撮影者:前田)

カモ科



●カルガモ (留鳥)
ふ化したヒナはすぐ歩くことができ親鳥に導かれて水辺へ向かう。(撮影者:稲垣)



●キンクロハジロ (冬鳥)
黒い頭に黄色い目が特徴。後頭には冠羽がある。(撮影者:森井)



●オナガガモ (冬鳥)
数千羽の大群で飛来する。冬の庄内川を代表するカモ。(撮影者:森井)



●ホシハジロ (冬鳥)
体に丸みがあり赤褐色の頭と黒い胸が特徴。水中の草などを食べる。(撮影者:森井)

サギ科



●ダイサギ (留鳥)
ときどき水面をじっとにらみ魚をくちばしで挟んだり刺したりしてとらえる。(撮影者:森井)



●アオサギ (留鳥)
サギの仲間最大。全体に灰色に見え、前頸に黒色の縦斑が数本ある。(撮影者:本若)

カモメ科



●ユリカモメ (冬鳥)
全体的に白っぽく成鳥の赤いくちばしと足が特徴。(撮影者:森井)



●コアシサシ (夏鳥)
急降下して飛び込み水中で素早く魚を捕らえて舞い上がる。(撮影者:前田)



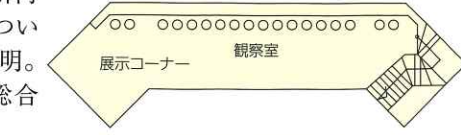
●セグロカモメ (冬鳥)
翼の上面が青灰色の大型のカモメ。(撮影者:森井)

館内のご案内

2F

[64m²]
観察室:望遠鏡18台 展示コーナー

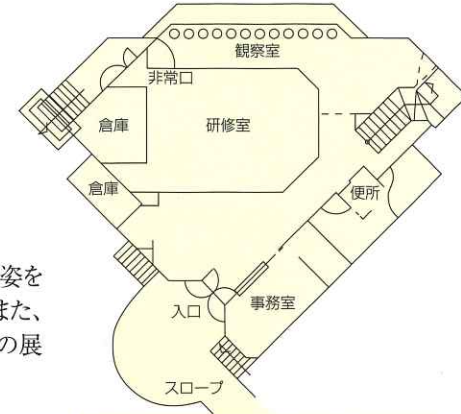
●2階の展示
展示コーナー。庄内川河口で見られる野鳥について生活様式・生態を説明。また干潟の生き物を総合的に説明してあります。



1F

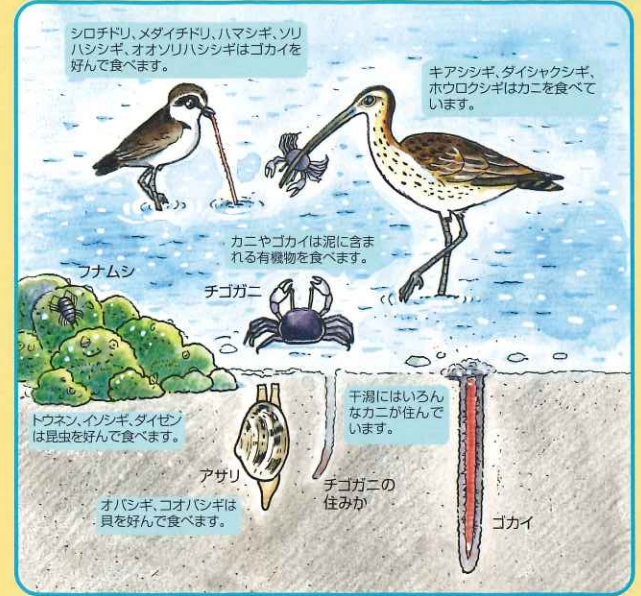
[193m²]
観察室:望遠鏡12台
研修室:40~50名

●1階の展示
はく製を展示し野鳥の姿を間近で観察できます。また、パネル写真による野鳥の展示などがあります。



庄内川河口の特徴

庄内川は名古屋市市の北から西側を流れて名古屋港に注ぐ1級河川で、河口付近には広大な干潟やアシ原をかかえています。そのため年間100種以上の野鳥が観察でき、春・秋の渡りの時期にはシギ・チドリ類が多く渡来し冬期には数万羽のカモやハマシギなどが川面や干潟を埋め尽くします。また平成14年には庄内川河口を含む藤前干潟がラムサール条約(特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約)に指定されました。



干潟の役割

「潮が引くと現れてくる平らな海底」と辞典には出ていますが、干潟にはいろんな種類があり、いろんな役割を果たしています。干潟は、川と海が合わさる所で、しかも外海に直接面していない所に多く見られます。こういった所では、上流から流されてきた細かい砂と海や川のゴミ(人間が排出した食品の残り、生物の死がい等)などが堆積し、表面に層を作っています。この層(「デトリタス」といわれる)が干潟の大きな特徴で、大きく分けて次の2つの作用があります。
餌の供給: 微生物や貝・ゴカイ・カニ・魚などの餌となるばかりか、これらゴカイたちはシギやチドリ・カモ等の餌となっている。
水の浄化装置: 川の水や海水中の汚物をろ過して水をきれいにしたたり、水に酸素を溶かし込んで微生物が水をきれいにするのを助けたりしている。
これを総合的に見ると、「食う・食われる」という、自然界の基本ともいべき食物連鎖が成り立っています。

ご利用のご案内

- 開館時間 午前9時～午後4時30分
- 休館日 毎週月曜日
(月曜日が祝日の場合はその翌日)
第3水曜日
(第3水曜日が祝日の場合は第4水曜日)
年末・年始(12月29～1月3日)
- 入場料 無料
- お願い 団体利用の時はあらかじめ連絡してください。(重複をさけるため)

ウ科



●カワウ(留鳥)
潜りが上手な漁師。数百羽が中堤や干瀬で翼を広げて乾燥させる。(撮影者:本若)

カイツブリ科



●カンムリカイツブリ(冬鳥)
カイツブリ類の中で最も大きく首が長いのが特徴。(撮影者:米倉)

チドリ科



●ダイゼン
(冬鳥または旅鳥)
白と黒のコントラストが目立つ。歩いてはとまり、餌をとる。(撮影者:森井)



●シロチドリ(漂鳥)
せわしく歩き回り、ゴカイ類などを採食する。(撮影者:森井)

●メダイチドリ(旅鳥)
他のチドリ類とよく似ているが茶褐色の胸(夏羽)が特徴。(撮影者:森井)



ワシタカ科



●ミサゴ(留鳥)
魚食性のタカ。水面を低く飛び足から水面に飛び込み魚を捕らえる。(撮影者:前田)

シギ科



●チュウシャクシギ(旅鳥)
下に曲がったくちばしを持つ中形のシギ。(撮影者:米倉)



●ハマシギ(冬鳥または旅鳥)
数千羽の群をなすことが多くその見事な群飛が特徴。(撮影者:本若)



●オオソリハシギ(旅鳥)
少し上に曲がった長くちばしが特徴。(撮影者:森井)

交通ご案内図



交通機関ご案内

●鉄道

あおなみ線 名古屋駅—(所要21分)—野跡駅(のせきえき)下車

●バス

乗車停留所	系統名(行き先)	下車停留所
名古屋駅から	幹名駅2 野跡駅	野跡駅(終点)
金山駅から	金山25 野跡駅	野跡駅(終点)
高畑駅から	高畑13 野跡駅	野跡駅(終点)
築地口駅から	野跡駅	野跡駅(終点)
	幹築地1 フェリーふ頭	野跡駅
	稲永スポーツセンター	稲永スポーツセンター(終点)
	金山25 野跡駅	野跡駅(終点)

※下車後徒歩…野跡駅より10分、稲永スポーツセンターより7分



●写真提供

名古屋市鳥類調査会

森井 豊久 稲垣 佐喜子
前田 崇 本若 博次
米倉 静 (敬称略)

マークデザイン: 本若博次

●お問い合わせ先

名古屋市野鳥観察館
名古屋市港区野跡4-11-2
稲永公園内
☎(052) 381-0160

所管:名古屋市緑政土木局農業技術課
☎(052) 972-2466

このパンフレットは古紙/パルプを含む再生紙を使用しています。

名古屋市(稲永公園)
野鳥観察館



名古屋市